

8「平塚市豊田地区町内福祉村」（神奈川県平塚市）

1. 概要



運営主体	任意団体（平塚市豊田地区町内福祉村）		
所在地 （基礎自治体）	神奈川県平塚市	人口規模* （基礎自治体）	255,982 人(R4.1.1 現在)
（活動範囲）	平塚市豊田地区	（活動範囲）	5,315 人(R4.1.1 現在)
活動拠点の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉村拠点：豊田分庁舎（旧豊田幼稚園） ・地区内 7 か所で開催されるサロン：自治会館 		
活動開始年	2018（H30）年 ※2017（H29）年 10 月 豊田地区町内福祉村設立準備委員会立ち上げ		
活動概要	「地域で支え合うしくみ」を地域住民が主体となって創り上げている「町内福祉村」では、介護保険制度では対応しきれない、地域住民に対するきめ細やかなサービスの提供を行っている。主に、制度によるサービスでは解決できないちょっとしたお手伝い（例えばゴミ出しや家具の移動、話し相手等）や地域住民が気軽に立ち寄れる「通いの場（サロン）」の提供、そして、活動拠点に配置されている地域福祉コーディネーターが、地域住民からの相談に対応している。		
対応する地域課題	地域のつながりの希薄化 世帯が抱える課題の複雑化・複合化 生活支援ニーズの増加		

*人口出典：平塚市 WEB サイト「人口と世帯・町丁別人口と世帯（推計人口による）」https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/tokei/page-c_01771.html

2. 活動の展開プロセス

■「豊田地区町内福祉村」設立検討に至る経緯

- ・平塚市では、1999（H11）年より、今後地域で「住民同士の支え合い」が必要となることを見越して「町内福祉村」という市独自の取組を開始。豊田地区町内福祉村設立以前に、市内 17 地区で既に福祉村が設立されていた。
- ・地区自治会長と市関係者との交流会において、豊田地区の連合自治会長（現・豊田地区町内福祉村会長）に、市から「豊田地区でも町内福祉村を立ち上げてほしい」と相談。
- ・連合自治会長はネットで情報収集しつつ、立ち上げに向けた検討会委員数名を集める。
- ・市の福祉総務課より、町内福祉村についてプレゼンを受け、設立に向けた検討課題が明らかに。

■福祉村設立に向けた検討課題とその対応

- ①豊田地区では、既に社協のサロンと生活支援（生活サポートとよだ）が活動。
こうした既存活動の体制や内容を大きく変えずに、福祉村の活動として実施できるよう要望が出た。
[対応]サロン活動及び生活サポートとよだは町内福祉村が継承・統合。
（後述の「ふれあい交流活動（サロン）」「身近な生活支援活動」）
- ②福祉村の活動拠点の準備が可能か。
[対応]連合自治会長が、自宅近くの豊田分庁舎（旧幼稚園）に活動に利用できそうな場所があることを知り、市に利用調整を依頼。➡承諾を得る。
- ③福祉村の運営組織を作ることができるか。
- ④「地域福祉コーディネーター」を、できれば複数名配置可能か。
- ⑤サロンと生活サポートとよだを実施するサポーターが確保できるか。
[③～⑤の対応]：豊田地区町内福祉村設立準備委員会において検討。
活動の展開、役員やボランティアの調整、既存活動との調整を行う。
豊田地区の主要 18 団体に、福祉村開設の説明会を開催し、了承を得る。

活動拠点の確保



地域のことをよく知る連合自治会長が、豊田分庁舎（旧幼稚園）に活動に利用できそうな場所があることを知り、市に利用調整を依頼した。

運営の「コアメンバー」集め



市から、福祉村立ち上げを打診されたため、まずは連合自治会長が情報収集をしたうえで、身近な仲間たちに声をかけた。

地域の主要団体への説明



豊田地区は、既存のサロンや生活支援の活動内容を大きく変えずに実施できるよう、要望をまとめて市へ提出。また、豊田地区町内福祉村設立準備委員会が、地域の主要団体向けに説明会を実施。
福祉村が地域で円滑に活動できるよう、理解を得た。

■設立準備委員会での検討

- ・ 活動拠点として確保した豊田分庁舎の一室を改修・掃除、必要な備品の調達などを検討。
- ・ 他の分庁舎で使わなくなった机や什器があったため、市の福祉村事業担当者の調整により、これらの備品を優先的に譲り受けることができた。その他の備品は、市からの助成金で調達。また、リサイクルショップをまわるなど、低コストで調達できるよう工夫した。
- ・ 福祉村の開設日や呼称、設立総会や開村日を調整。
- ・ 設立準備時のメンバーは 5 名体制だったものの、想定以上に事務手続きや備品等の搬入など作業量が多く、大変な思いをした。今考えると、もう少し人手があった方がよかったかもしれない。

運営に必要な物品（机や椅子など）の調達

POINT

活動にあたり、机やイス、棚など必要な什器があったが、市が使わなくなったものを譲り受けることができた。その他の備品は、市の助成金で購入、リサイクルショップで安価に入手。

■「豊田地区町内福祉村」オープン！

- ・ 2018（H30）年 2 月、豊田地区町内福祉村設立総会を開催。

<主な活動>

- ・ 地域福祉コーディネーター：住民同士の活動の輪づくり

地域住民からの相談、何気ない会話の中からニーズを拾い上げ、ボランティアや高齢者よろず相談センター（地域包括センター）、自治体につなぐ。

活動日は月曜、火曜、木曜、金曜の 10：00～15：30、隔週で土曜午前（拠点に常駐）。

原則 13 名で活動。70 歳代のスタッフが多く、男性が多くを占める。

資格の有無は問わないが、市主催のコーディネーター研修等を受けてもらうことを要件としている。

- ・ 身近な生活支援活動：ちょっとしたお手伝い

ボランティアによる生活支援（例：ゴミ出し、電球交換、家具移動、草刈り等）

依頼に応じて対応。年間 122 件対応。（2021（R3）年 4 月～2022（R4）年 1 月実績）

27 名の登録がある。70 歳代のスタッフが多い。

部長（責任者）がおり、受けた依頼に対して現場確認をし、対応可能かどうか判断している。

- ・ ふれあい交流活動（サロン）：地域のつながりを企画

「出向きサロン」・・・豊田地区内 7 か所の自治会館で開催。原則月 1 回。

「拠点サロン」・・・福祉村拠点で開催する 5 つのサロン。月 1～4 回。

「屋外サロン」・・・グラウンドゴルフ。月 2 回。

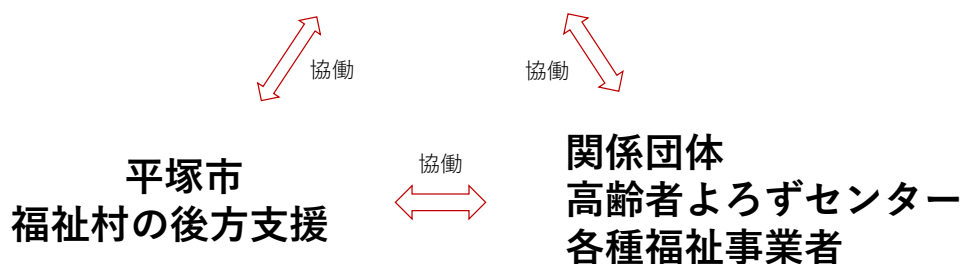
サロン運営は 2～3 名。参加者数は 10～30 人。70 歳代後半の方が多い。

サロンのリーダーは、福祉村設立前の社協サロンのリーダーがそのまま務めている。

<活動の全体像>

- ・ 活動の主体は地域住民で、行政はその後方支援を行う。地域の関係団体や包括、福祉事業者との連携・協働により、地域のつながりづくりや、制度サービスでは解決できない生活支援を展開。

地域住民 主体は地域住民



▲豊田地区町内福祉村作成資料より

■活動の特徴や課題

- ・「地域福祉コーディネーター」には、民生委員の経験者もいるので、その経験が「会話の中でニーズや困りごとを引き出す」ことに生かされている側面はある。また、サロン等での日常的な付き合いがあるからこそ、気づくこともある。足腰が悪くなりサロンに参加できない人を地域福祉コーディネーターが付き添って連れてくることもある。
- ・サロンは豊田分庁舎を「拠点サロン」とし、ほか 7 か所に「出向きサロン」を設置。出向きサロンは地区最小単位のコミュニティの場であり、住民同士のつながりが強い。これが豊田地区町内福祉村の特長。
- ・拠点サロンには、決まった活動内容に対し興味のある人が参加。出向きサロンは体操や脳トレを必須とし、その他は自主的に内容を検討。なお欠席者には声掛けし、見守りにもつなげている。
- ・2 か月ごとに、出向きサロンのリーダーや関係団体との情報共有・交流の場を設けている。
- ・ふれあい交流サロンでは男性参加者が少ないという課題があったため、拠点サロンで健康麻雀、健康吹き矢、公園でのグラウンドゴルフを実施。多くの男性が集まった。
- ・健康吹き矢は、活動拠点の隣の放課後児童クラブを利用する子どももやってきて楽しんでいる。健康吹き矢の時間に来ることもあれば、それ以外の時間に「吹き矢をしたい」と遊びに来ることもある。

■新たな活動

- ・拠点サロンでオレンジカフェを実施。地域包括支援センターから協力を得て、塗り絵や折り紙、茶話会を行い認知症の抑制に取り組む。
- ・小学校 1～6 年生を対象とした子育て支援活動として、学習支援を実施。講師は現在 11 名。9 名が元教師で、残り 2 名は一般企業の方。月に 2 回、国語、算数、英語（4 年生から）を教える。
- ・講師集めには苦労した。元教員を探そうにも、個人情報ネックになり、なかなか教えてもらえない。会長の知人や友人をたどり、色々な人と話す中で「実は元教員で…」という話を引き出していった。

■活動の更なる展開に向けて

- ・参加者集めは、参加者の口コミが効果的。ほか、市の「活動展示会」、年 2 回発行の「福祉村だより」、市の「地元密着!!ちいき情報局」（市や地区の団体の活動情報等を発信する WEB サイト）での発信をしている。
- ・写真撮影が得意なメンバーが広報係を担う。当初は撮影のみであったが、記事も書くことになり、あれよあれよという間に広報係として WEB サイトの更新を担うことになった。更新すれば反響もあり、楽しい。
- ・新たな活動を増やすには、1 人が活動のすべてを取り仕切るのではなく、地区の主要者（キーパーソン的な人物）を発見し、協力を得て、リーダーとして参画いただく必要がある。従来の活動では、リーダーが活動上の責任から指導まで全てを担っており、相当な負担となっていた。町内福祉村という組織ができたことで、会場の手配や会員名簿の管理、機材の管理などの作業が分離され、効率的な運営ができるようになった。
- ・ボランティアが活動の基本なので、1 人に負担が偏らないように考えている。「自分が自分が」ではなく、「みんなでおみこし担ごうよ」という姿勢をとっている。

活動を続けるための体制づくり 運営のコツ

POINT

福祉村拠点において、会場手配や会員名簿の管理など
周辺業務的な役割を担うことで、出向きサロンは活動そのものへの注力が可能に。
結果として、活動が円滑化し、新たな活動にもつながる。
「地域のキーパーソン」の発見・協力の獲得が重要！

3. 今後に向けて

(1) 今後の展望

- ・ オレンジカフェについては、今後介護をしている人にも集ってもらい、息抜きをしてもらう場にしたい。
- ・ スタッフの継承が課題。特にサロンリーダーには 80 代の方もおり、「負担が大きいため休めたい」という声もある。今後はリーダー養成に注力したい。その中で、「身近な生活支援」の担い手も増やせたらと考えている。
- ・ 自治体とは引き続き、連携体制を継続していきたい。

(2) 自治体からの活動に対する印象、期待

- ・ 市の立場では、相談窓口でニーズや困りごとを聞いても、相談者本人のことしかわからない。他方で福祉村の地域福祉コーディネーターは、普段から地域で生活し、住民と接したり様子を見たりしているので「普段と違うかも？」というちょっとした変化に気づくこともできるし、また、相談者本人の周辺の状況も踏まえたうえで話を聞いていただける。ありがたい存在。
- ・ 活動の継続に向けては、他地区からも「口コミや仲間との話で関心を持った人の参加を促すことが効果的」との実体験があると聞いている。まずは参加者として楽しく活動してもらい、共感してくれた方に運営にも関与いただくことは 1 つの方法かと思う。

活動団体の情報	平塚市豊田地区町内福祉村（神奈川県平塚市） TEL 0463-67-1618 Email toyoda-fkm@mc.scn-net.ne.jp WEB サイト http://hiratsuka.johokyoyu.net/area/toyoda/ (地元密着!!ちいき情報局 豊田地区ページ) 視察の受け入れ：応相談 ※視察希望の際は、平塚市福祉総務課（0463-21-9848）まで 平日 8:30～17:00
---------	--